

研究課題名	肺腺癌における悪性化進展メカニズムの解明
研究期間	実施許可日 ~ 2027年3月31日
研究の対象	2013年4月から2017年3月の間に、広島大学病院呼吸器外科で肺癌に対する切除術を受けられた患者さんのうち「病理標本の教育・研究利用についてのお願い」に基づき説明を受け、同意の上で試料・情報を提供いただいた患者さん
研究の目的・方法	研究目的：近年、小型肺腺癌は増加傾向にあり、浸潤癌という部位と非浸潤癌という部位が混在していることが多くみられます。この二つの部位で発現している遺伝子を比較し、浸潤部で高発現を示す遺伝子をいくつか発見しました。本研究では、その遺伝子群のうちのひとつである Guanylate binding protein 1 (GBP-1) に着目し、その解析を進めることで、肺癌の新たな治療開発につなげていきます。 研究の方法：本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。手術時に切除された肺癌検体を用いて、免疫染色を行い GBP-1 タンパク質の発現を調べます。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）
研究に用いる試料・情報の種類	情報：カルテから使用する内容は年齢、性別、身長、体重、喫煙歴、腫瘍径、病期（臨床病期、病理病期）、手術日、術式、手術記録、血液検査結果、病理検査結果、画像情報、治療経過等 試料：肺癌検体
外部への試料・情報の提供	本学単独で実施する研究のため外部への提供は行いません。
利用または提供を開始する予定日	本学における実施許可日（2023年8月22日）以降随時
個人情報の保護	試料・情報は解析する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものかわからないようにします。
研究組織	本学の研究責任者 広島大学原爆放射線医科学研究所腫瘍外科 教授 岡田 守人
その他	
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果

には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。

また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独自性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5869

広島大学大学院医系科学研究科 大学院生 熊田 高志

広島大学病院呼吸器外科 助教 見前 隆洋